

# 「百姓漁師」と「漁師百姓」

## 海付きの村の生業複合と水田稲作

Farming-Fisherman and Fishing-Farmer :  
Subsistence Composition and Paddy Field in the Sea Village

安室 知

YASUMURO Satoru

はじめに

- ①「農漁民」という視点
- ②漁師百姓の農と漁
- ③漁師百姓の生計維持戦略
- ④漁師百姓と百姓漁師

おわりに

### 【論文要旨】

本稿は前稿「『百姓漁師』という生き方－漁村類型としての『半農半漁』批判－」[安室, 2010]の続編である。本稿では、同じ海付きの村の中にあっても多様な生活ぶりが存在することを、住民の自己認識を示す「百姓漁師」と「漁師百姓」に注目して検討する。

従来「半農半漁」と一括される海付きの村の生活には、実は大きくふたつの志向性が存在することがわかった。ひとつは百姓漁師であり、もうひとつが漁師百姓である。百姓漁師と漁師百姓は、自給性の側面では農と漁の複合生業という点で差はないが、稼ぎの側面では大きく異なる志向性を持つ。前者の金銭収入は漁に大きく依存するのに対して、後者は農・漁・運搬業といった金銭収入を生み出す複数の生業を持っていた。つまり、百姓漁師が特定の生業に稼ぎを特化させたのに対して、漁師百姓は稼ぎを多角的にするという生業戦略をとったといえる。

稼ぎに対する志向性の違いは、生業に関する家族間の役割分担にも影響を与えている。百姓漁師の場合は、男が金を稼ぎ、女が自家消費の生業を担うという役割分担が明確であったのに対して、漁師百姓ではそうした明確な男女の対比は不可能であった。漁師百姓は家族みんなで稼ぎに当たるとともに、自家消費面でもみんなで担うという生業戦略をとっている。

両者の生業戦略とくに稼ぎにおける志向性の違いを生み出す背景として注目されるのが水田所有の有無である。水田を所有するもの（漁師百姓）としないもの（百姓漁師）というように峻別できる。また、両者の生業複合度を大きく左右するのはコメの存在である。水田を持たない百姓漁師にとって基本的にはコメは買うものであったのに対して、漁師百姓はコメの自給が可能であった。

と同時に、水田の存在やその所有のあり方が、海付きの村では社会的階層を示すものとなっている。つまり、水田はコメを作るためだけの空間ではなく、海付きの村にあっては社会階層を映し出す象徴的空間として存在したといえる。そして、その所有の有無は生業戦略の違いにも反映していた。それが佐島では「百姓漁師」と「漁師百姓」の違いとして顕在化したといえる。

【キーワード】 百姓漁師, 漁師百姓, 海付きの村, 生業複合, 水田